

仲間を大切にし、よりよく生きる児童の育成

～山口県の自然や文化にふれる体験活動を通して～

周南市立周陽小学校

学 校 の 概 要

① 学校の規模

- 学級数：14学級
- 児童数：410人
- 教職員数：22人
- 活動の対象学年：5年生・59人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 石油化学コンビナートの発展とともに開発された周南団地の中央に位置し、マンション、アパート住まいの子どもたちが大半である。
- 公共施設がそろっており、公園も数多く設けられ、緑の多い地域である。交通量が多く、子どもたちの遊び場所のほとんどは、公園か室内である。
- 一見学校の周りには自然がたくさんあるように見えるが、広々とした草原や満天の星空など本当の大自然にふれる機会は非常に少ない。

③ 連絡先

- 〒745-0823
周南市周陽1丁目15番1号
- 電 話：0834-28-0555
- F A X：0834-28-0588
- ホームページ：
<http://www.shunan.ed.jp/shuyosho/>
- 電子メール：
shuyosho@shunan.ep.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

- 山口県の自然や文化にふれる活動
 - ・ 学校生活では体験できない現地での萩焼体験やうどん作り、秋吉台の大自然の中でのディスクゴルフや洞窟探検などを体験することを通して、五感を使って山口県の自然や文化にふれ、感動する心をもった子どもを育てる。
 - ・ 校内では全校で美化活動や校区内清掃に取り組み、花を育てる喜びやボランティア精神をもった子どもを育てる。
- 宿泊をとまなう共同生活体験
 - ・ 友達とともに、協力しながら共同生活や自然や文化にふれる体験活動を行うことを通して、友達のよさに気づき、思いやりをもった子どもを育てる。また、何事にも生き生きとやる気をもって取り組むことのできる子どもを育てる。

② 活動内容と教育課程上の位置づけ

- 秋吉台少年自然の家での宿泊学習
(5年生2泊3日 学校行事18時間)
- 花壇や一鉢の花の世話 (全学年)
(24時間(30分×48回) 夏季休業中含む金曜日美化活動の時間)
- 校区内の通学路、公園のごみ拾い
(全学年 学校行事2時間)
- 周陽文化祭で体験したことの発表
(全学年 学校行事4時間)

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- 友達と協力しながら共同生活や体験活動を行うことを通して、友達のよさや大切さを知り、思いやりをもった子どもを育てる。
- 五感を使って、山口県の自然や文化のすばらしさにふれる活動を通して、感動する心をもった子どもを育てる。
- 互いのよさを生かしながら共同生活や体験活動を行うことを通して、規則や規律の大切さを学び、何事にも生き生きとやる気をもって取り組むことができる子どもを育てる。

(2) 全体の指導計画

活動内容(実施学年)	時間	教育課程上の位置づけ
・花壇や一鉢の花の世話(全学年)	24時間(30分×48回) (夏季休業中含む)	金曜日美化活動の時間
・秋吉台少年自然の家での宿泊学習(5年生)	2泊3日(18時間)	学校行事(遠足・宿泊的行事)
・校区内の通学路、公園のごみ拾い(全学年)	2時間	学校行事(勤労生産・奉仕的行事)
・周陽文化祭で体験したことの発表(全学年)	4時間	学校行事(学芸的行事)

2 活動の実際




(1) 事前指導

- ・ 宿泊学習での体験活動が意義ある活動となるように、活動に関わる内容について調べたり、自分なりの思いをもったりさせるようにした。
- ・ 子どもと保護者を対象に事前説明会を開き、宿泊学習のねらいや持ち物、活動内容について理解を得た。また、一人ひとりの健康調査を行った。

(2) 活動の展開

一年次の反省から、山口県の大自然にもっとふれられるように宿泊場所を秋吉台少年自然の家に変更し、新たに洞窟探検や大理石クラフトの活動を加えた。

事前の学習として、インターネットや市立図書館から集めた資料を基に萩焼き、うどん作り、秋吉台の自然について調べたり活動の計画を立てたりした。子どもたちは、山口県の伝統文化のすばらしさに気付いたり、初めてのことに驚いたりすることで、宿泊学習での体験にむけて期待感を高めることができた。

11月7日(水) 萩・秋吉台	11月8日(木) 秋吉台少年自然の家	11月9日(金) 秋吉台・美祢
萩焼体験 萩市博物館見学 秋吉台少年自然の家入所 大理石クラフト 班長会議 	うどん作り ディスクゴルフ キャンドルの集い スタンプ 班長会議 	奉仕活動 景清洞窟探検 セメント工場見学(美祢市) 

○ 事後の指導

宿泊学習終了後に自己の変容について振り返り、自分なりの言葉で新聞にまとめた。また、友達との協力の大切さや、体験したことを全校のみんなや地域の方に発信するために、周陽文化祭（児童会活動）で各活動のコーナーを準備し、体験してもらった。さらに国語科の「ニュースを伝えよう」では、宿泊学習の内容でニュース番組を作成し全校に放映した。

以上のように事後の指導では、体験した内容を自分だけに留めてしまうのではなく、周りの人に積極的に伝えるといねらいをもって取組んだ。

3 体験活動の実施体制

(1) 学校を挙げて実施する際の体制整備について（特に留意する点等）

① 学校支援委員会の構成

校長、教頭、教務主任、5年生担任、PTA会長、学校評議員5名

② 学校支援委員会の主な活動

- ・ 立案した活動計画について事前に検討してもらった。
- ・ 子どもたちの活動報告（周陽文化祭での発表）を見学してもらい、評価してもらった。

(2) 保護者理解を得るための取り組みについて

- ・ 4月当初の参観日や学年通信で体験活動の概要を知らせ、実施の前月には宿泊学習説明会を開催し、体験活動のねらいや経費について詳しい説明を行った。

(3) 宿泊体験を実施する際の受け入れ地域・団体、関係するボランティア、指導員等との連携、協力体制づくりについて

- ・ 夏休みに行われた宿泊団体に向けての説明会に参加し、活動計画、活動内容について打ち合わせを行った。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

評価カードの項目は

- ・ 友達のよいところを発見することができたか
- ・ 友達と協力することができたか
- ・ 進んで活動（見学）に取り組むことができたか
- ・ 規則や時間を守って活動することができたか
- ・ 活動や見学を通して感動することができたか

の5項目とし、友達とのかかわりや自分の心の変容が分かることに重点を置いて設定した。

そのため、今年度新たに「活動を通して感動することができたか」の項目を加えた。

形式については3日間の友達や活動への思いの日々の変化が一目で分かるように、4段階の自己評価で1枚にまとめる工夫をした。

この評価カードは、就寝前に活動したことを思い出しながら一日の反省として記入し、その評価を参考に、次の日の活動がより充実するためのグループでの話し合いや指導に役立った。

	11月7日(水)	11月8日(木)	11月9日(金)	3日間を通して
	1日目	2日目	3日目	
友達のよいところを発見することができたか。	1 2 3 4 □ □ □ □	1 2 3 4 □ □ □ □	1 2 3 4 □ □ □ □	1 2 3 4 □ □ □ □
友達と協力することができたか。	1 2 3 4 □ □ □ □	1 2 3 4 □ □ □ □	1 2 3 4 □ □ □ □	1 2 3 4 □ □ □ □
進んで活動（見学）に取り組むことができたか。	1 2 3 4 □ □ □ □	1 2 3 4 □ □ □ □	1 2 3 4 □ □ □ □	1 2 3 4 □ □ □ □
規則や時間を守って活動することができたか。	1 2 3 4 □ □ □ □	1 2 3 4 □ □ □ □	1 2 3 4 □ □ □ □	1 2 3 4 □ □ □ □
活動や見学を通して感動することができたか。	1 2 3 4 □ □ □ □	1 2 3 4 □ □ □ □	1 2 3 4 □ □ □ □	1 2 3 4 □ □ □ □

5 活動の成果と課題

(1) 成果

今年度は秋吉台少年自然の家に宿泊し、野外炊事や洞窟探検など山口県の自然のすばらしさに直接ふれ、五感を使って体験することができたので、何事にも深く感動する心をもった児童を育てることができた。

児童の感想からは、「友達の大切さ」、「仲間を大切にしたい」などの言葉が多く見られ、思いやりの心が育ってきていると感じ取ることができた。

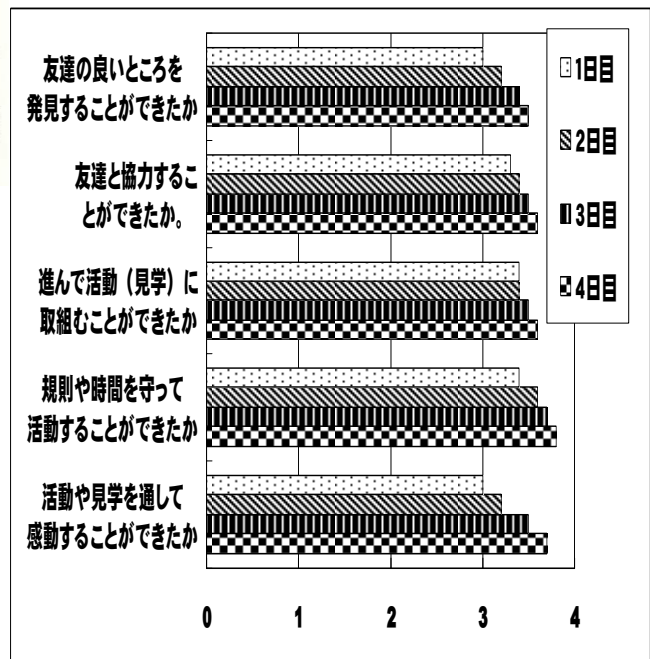
また、宿泊学習で学んだことを普段の生活に生かしたいという意欲が伝わってくる感想も多くあった。

がいました。そして洞くつに入って、たけんしました。
飛行機雲やさの河原などの名前がつけられた
場所がありました。そして、暗闇体験をしました。そして、
暗闇体験をした後自然の家の先生がいました。
みんなくは仲間がいる仲間を大切にしたい。
いつかでも、ぼは感動します。そして伊佐でサ
イ場に行くと、



★とてもハード
な日々だったけど、楽しい
宿泊学習でした。
わたしは友だちの
大切さをもっとしり
ました。心あと、人との
であいを大切にしない
といけないうことも勉強
しました。

《日々の評価点の変化》



評価カードについては、評価点を平均したところ、どの項目においても評価点が日ごとにアップする結果を得ることができた。

このことから、様々な体験を積み重ねていくことは児童の気持ちに大きな変化をもたらすことが分かった。

2泊3日の宿泊学習から、子どもたちの心に大きな変化が現れ、心を成長させることができたので、十分な成果を上げることができた。

(2) 課題

体験活動に関する研究を2年間続けたことにより、宿泊学習の内容が見直され、より郷土に密着した豊かな体験活動を仕組むことができた。さらにグループでの活動の幅が広がったことで、友達の良さや大切さを知り、思いやりの心をもつことができる児童に成長した。ただ、来年度からの活動内容については経費面から活動場所、内容の見直しが必要であり、支援委員会や保護者との連携や協力体制の充実が急務である。

また、宿泊学習で得たことを他の体験活動で効果的に発揮するにはどうすればよいかについても考え、体験活動のよさを全校に広げていきたい。